

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200040		
法人名	特定非営利活動法人 醍醐会		
事業所名	醍醐の森川崎グループホーム		
所在地	栃木県足利市川崎町2316		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	平成22年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成22年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの認知症高齢者を狭い敷地に囲い込むことのないよう、渡良瀬川の堤防沿いに1100坪の広大な敷地の中にあり、四季々の草花や樹木のある庭を有し、農園で栽培される野菜を使って、毎日の献立を立てて食事を提供しています。家族会が、当ホームのイベント等を強力にバックアップしている為、入居者が、町内会の活動に積極的に参加し、夏祭り、敬老会、クリスマス会、春秋の小旅行等のイベントは、地域に根ざした施設として運営推進会議、地域住民、ボランティア等を巻き込んだ盛況を極めている。特に夏祭りは、毎年、350人の参加があり、4000発の打ち上げ花火は、その地域の風物になっている。そして入居者の個々の特性を活かした介護の取組みを最重要課題と位置づけて、そうしたイベントを通して地域で存在感を持ち、毎日の生活に於いて自信を持って「ここが私の家です。」と言って頂けるように普通の生活の場を提供し、人に優しい施設の構築を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市南部の渡良瀬川堤防の近くの田畑に囲まれた集落に位置しており、広い敷地には広場や農園の他、整備された庭園にはバラ等の様々な草花が植えられ、季節感が楽しめるようになっている。また、中庭にある和風庭園も落ち着いた雰囲気を作り出している。ホームが毎年開催する花火大会は、地域を巻き込んだ行事となっている。また、運営推進会議では自治会役員に議長を担当してもらっている他、避難訓練時には地域住民が入居者の避難誘導を担当する等、地域との連携や協力体制が構築されている。ホームにはデイサービスも併設されており、入居者が住み慣れた地域の中で馴染みの人との関係を保ちながら自分らしい生活が送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、地域に密着したそして地域に貢献できる施設の運営を目指して、その事業所理念を共有している。	市内における民間事業所の先駆けという自負の下に、4項目からなる理念をつくりあげており、事業所内に理念を掲示している。また、毎月の定例会議時に職員と共に理念及び運営方針の共有を図っており、特に「ありがとうございます」を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を届けたり、町内費納入する等、利用者と共にいき、積極的に利用者と職員が町内会の事業に参加し、当ホームでも開催される各種イベントを通して地域の一員として自覚させている。	自治会に加入しており、地域の行事や活動には積極的に参加している。ホームで開催する花火大会は、自治会や家族会の参加、協力により350人も集まる大イベントになっている。イベントでは、ホームの農園で収穫された食材を使う等、地域の一員として楽しみながら交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームで開催される夏祭り、クリスマス等のイベントばかりではなく、積極的に職員と利用者が共に町内会活動に参加する度に認知症の理解や施設の関わり方を説明する機会を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議委員に日常も含めて、積極的に事業所で開催されるイベント等に参加して頂き、運営推進会議開催時、当ホームの外部評価、情報公開等を公表し、それについて討議し、改善点がないか、積極的に意見を吸い上げるようにしている。	運営推進会議は入居者、家族会代表、自治会役員、市職員等の参加により2ヶ月に1度開催している。会議ではホームから入居者の状況や行事等の報告の他、参加者からも意見や助言が出されており、ホームの運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当ホームの運営推進会議委員の委員である市職員等を含めて行政関係者とも信頼関係を築き、昨年より一層、協力体制が取れるようになった。	管理者は市職員へホームの運営や取り組み状況等を積極的に報告しており、日頃から市との協力関係の構築に努めている。市職員は毎回、運営推進会議に出席し、ホームの現状を把握してもらっており、防災面等において助言をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、身体拘束の定義や具体的な行為を挙げて話し合いの機会を設けて、メディスンロック等についても取り組んでいる。	身体拘束については毎月の定例会議において全職員が「身体拘束をしないケア」について学んでおり、身体拘束にあたる行為や弊害についての理解を深めている。入居者の状況によっては安全確保の為に家族の了解の下で施錠することもあるが、普段は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、「栃木県高齢者虐待対応マニュアル」を中心とした勉強会を開催し、その防止に努め、虐待があった場合、その通報義務等について討議、検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、地域福祉権利擁護事業を利用していた利用者がいた為、十分に理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各々の利用者や家族との契約の締結時、出来る限り、管理者、計画担当責任者又はそれに準ずる職員が担当して十分に説明し、理解、納得を図り、改定がある場合、当ホームで組織されている家族会の総会等で説明の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議と家族会等をリンクして、時間をずらして開催し、相互の交流の機会を設け、それぞれ開催された時にそれらの意見・要望を吸い上げるようにし、毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、討議し、運営に反映させている。	年1回の総会時や運営推進会議等の行事の開催に合わせて家族会を開催し、家族からの意見や要望等の集約に努めている。家族から出された意見等は定例会議等で協議したうえで運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議を開催し、運営や各々の利用者の情報共有、それに基づく介護に必要なとされる用具、器具等購入等に至るまで討議している。	管理者はチームケアを重視しており、定例会議の他に日常業務においても職員が発言し易い環境作りを努めており、職員から出される提案等は会議等で検討し、運営に反映させている。職員からの提案によって車イスや洗濯機の増設もおこなわれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、法人の三役会や理事会等に於いて各事業の給与水準等の意見を吸い上げており、定例会議に於いて職員が要望する介護し易い、可能な限りの福祉用具・機器、必要な日常生活機器・用品の情報を得て、その充実を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、個々の職員のケアの力量を把握し、毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、勉強会を行い、法人外の研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県グループホーム協会、栃木県小規模ケアネットワークに所属し、管理者は、職員がそこで開催される研修会、勉強会等に積極的に参加するようにし、他の事業所との交流を進め、他の事業所の良い点を取り入れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設されている認知症専用デイサービスの利用していた為、殆どどの利用者本人との安心確保は、既になされている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	併設されている認知症専用デイサービスの利用していた為、殆どどの家族との安心確保は、既になされている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際し、当ホームでは現在、特養ホーム等で併設される居宅支援事業所によって横行する「抱え込み」は、絶対に行かない。当ホームを含め当グループ関連事業所にも居宅支援事業所は、運営していない。第一に利用者に支持される運営を目指し、介護保険制度の説明を行い、他のサービスの利用についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者の出来る事は、見守り、出来ない事は、職員と共に行い、全く出来ない事は、職員が代行するといった介護を基本としている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料の支払いは、持参を原則としていて、本人と家族の絆が切れないようにし、家族会を組織し、家族のイベント等の積極的参加を促し、職員と共に本人を支えていることを認識して頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に「ここが私の住まいです。」と認識して頂くようにし、家族を含め、親戚や知り合い等の面会を積極的に受け入れている。又出掛ける際は、馴染みの場所等を訪れるようにしている。	入居前の生活を継続出来るよう居室は畳敷にしており、馴染みの空間を認識できるようにしている。また、面会や夏祭りの招待訪問等を積極的に活用して馴染みの人達との交流の機会を作り、馴染みの関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	孤立しないように洗濯たみは、毎夕皆さん ので協力して名前別に仕分けを行な ったり、他の利用者の車椅子を押して頂 いたり、相互依存の関係構築するよう に支え合える支援を行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重篤状態となり、入院した場合、退居を余儀 なくなった利用者を退院後、特養ホーム入 所待ちをデイサービスとインフォーマルの宿 泊事業で支援するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	「どう暮したいか。」を本人に何度も確認し、 家族にも伝え、生活支援している。「ドライ ブに行きたい。」等の要望を聞き、叶えてい るが、困難な場合は、日にちをずらす等をし、 又代替を考えて、支援している。	常に声かけにより入居者一人ひとりの日々 の過ごし方の希望を確認しながら、要望に応 じた過ごし方ができるよう支援している。法人 所有の大型車等を使用して希望に添ったド ライブに出かける事もあり、入居者の意向に 添えるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	それまで利用していたサービス事業所や家 族より、情報提供をお願いして、計画に組み 込んで、リロケーションダメージを最大限に 軽減するケアを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック等から、その日の個々 の体調を考慮して、状態に合わせた過ごし 方を支援するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で少しの変化も見逃さず ケース記録に記載、担当の職員だけでなく 全員が目に見えるようにしている。時間を 決めカンファレンスを！そして本人の暮らし やすさを最優先にして計画に反映している。	ホームでの日々の生活状況を家族に伝え、 家族や職員の意見を元に毎週カンファレン スを行い計画に反映させている。3カ月また は半年毎に見直しを行っている他、状態に変 化が見られる場合にはその都度見直しを行 い、現状にあった計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に「計画にない内容」も枠をつ くり、特記には色を変えて記載、記入はその日 のリーダーとして全体の気づきや課題とな る内容に関しては朝の送り時や時間をつ くり検討し次に繋げている。		

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重篤状態となり、入院した場合、退居を余儀なくなった利用者を退院後、特養ホーム入所待ちをデイサービスとインフォーマルの宿泊事業で支援するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と職員が一緒に出掛ける際、又は外食に出かける際、先方に連絡を取るか、事前に訪問して認知症の説明し、理解を求め、協働して、利用者が安心して、そこを利用できるように勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には状態の経過細かく記載したコメントを作成し又家族に現状説明と今後どうありたいかを伝え受診に繋げる。変化が見られた場合は直接主治医に連絡し指示を仰ぐようにしている。	本人や家族の意向を確認し、希望するかかりつけ医での受診を支援しており、家族と職員は入居者の日々の状態や受診結果等を共有しながら、適切な受診が出来るよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の送り時にデイの看護師も同席し全体の把握と問題点を上げ、適切な処置やケアをすることにより快適な暮らしができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	後方支援病院と協力契約を締結し入院先にお見舞い訪問した際には先方の医療関係者と情報交換を密にして出来るだけ早期に「住み慣れた家」に戻れるように努めている。退院後の通院時には情報を添えて受診できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期に対してはその都度家族に説明する。事業所としての支援の限界も伝え又職員間でカンファレンスした結果の支援内容も家族に説明し伝える。終末期には医療機関との連絡を密にする。	家族の希望により看取りをしたこともあるが、家族会では終末期のあり方についてホームにおける支援の限界も説明し、話し合っている。入居者の身体状況が低下した時等には、家族にも協力医の往診時に同席してもらい、今後の方針を話し合う様にしている。	重度化や終末期におけるホームの指針の作成や早い段階から本人や家族との話し合いを重ね、同意書を作成する等、ホームと家族側が共通認識を持つための取組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設されているデイの看護師より応急手当や急変時の指導を適時受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は、年2回、避難訓練は、年1回、行なっている。夜間、職員が一人になった場合を想定して、近隣の住民に一人ひとりの利用者を担当して頂いて訓練を行った。	消防訓練は年2回実施しており、地域住民にも日頃から協力を呼びかけ、避難誘導訓練時にも居室をそれぞれ担当してもらう等、協力体制を構築している。災害時の備蓄は冷凍庫に食料等を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、本人の現役で働いていた頃の立場や自尊心を大切にされた言葉遣い、優しい笑顔での対応を行なうように指導し、支援している。	入居者一人ひとりの人格を尊重し呼び方は「さん」付けで呼んでいる。中には家族の了解のもと「ちゃん」付けの人もある。言葉かけについては人格や立場を尊重して対応することを職員間で共有し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、利用者が意思表示できるようにゆとり時間を掛けてコミュニケーションを図ることで、自己決定を促すように促すように指導し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、本人の心地良い場所や雰囲気や優先したり、朝、「今日は、何をしたいか？」の希望を聞き、叶えられるように指導し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、管理者、すべての職員が参加し、行なわれる定例会議に於いて、普段から、本人の要望に沿った身なりを整えるようにしており、特に外出時には、本人に洋服や靴等を選んで頂き、女性は、化粧をしてあげて、気持ち良く暮せるように指導し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の体調や好みを考えて上で、朝は、お茶入れ・おしぼり配り、昼は、野菜の皮むき等、夕は、器拭き・トレー拭きの協力をお願いしている。特に職員と共に醍醐農園で栽培された野菜等を収穫し、調理直前までの作業は、個々の利用者に変な楽しみである。	入居者は職員と一緒に食事の準備や片付けを行い、楽しみながらゆったりと食事を摂っており、職員も一緒に見守りながら同じ物を食べている。ホームの農園で入居者と栽培・収穫した物を調理したり、外食に出掛ける等の食を楽しむ支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分量は、毎食、バランスの良く、又適量に摂取できるように、その摂取に際し、見守り・声掛けを怠ることのないようにしている。水分に関しては、特に取れるときに嗜好を考慮して飲めるものを提供している。		

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入れ歯の掃除、インソジンにて口腔内の殺菌消毒施行。出来るだけ自力にて行なえるように指導し困難な方には手を添え磨き残しがないかチェックし全員行なえるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは排泄チェック表を確認し、習慣は生活歴から推察し、本人の能力を勘案しながら負担にならない声掛けをし上手に自立に向けた支援をすることでオムツ枚数を減らす工夫をしている。	排泄チェック表により、入居者一人ひとりタイミングに合わせて、さり気ない声かけや誘導に努めており、リハビリパンツやパットの使用を工夫しながら、入居者ができるだけ安心して自らトイレで排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、天気の良い日には散歩に出て体を動かし水分補給に努めている。食物繊維の多い食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の制約はあるが本人の希望に添うようになっている。拒否が強い場合は気分が上向きになったときを狙いスムーズに入浴できる支援をしている。	希望があれば毎日入浴できる体制になっており、入浴時間は昼食後から夕方にかけての時間帯で支援をおこなっているが、夕食後に入浴する人もいる。ADLの低下からホームでの入浴が困難になっている入居者には、併設デイサービスのリフト浴等を利用して入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は心地良い疲労感が得られるような活動を提供することで安眠に繋げる。いつもより疲労感が見られるときはひと時休息を促すように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬内容に関しては職員全員が把握している。下剤に関しては体調をみながら中止できるような体制作りも出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の清掃時にはモップが持て掃除に協力できる人には廊下等の掃除をお願いし、足の悪い方、椅子に腰掛け洗濯たたみをお願いしたりと		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回実施している小旅行は、家族会に協力して頂き、近隣市町村等に出掛けているほか、日常的にも外食や散歩に出掛けている。又敷地内には醍醐農園があり、その作業等も利用者の楽しみになっている。	年2回近隣市町へ家族の協力も得て、小旅行に出かけている。日常的にも入居者の日用品や食品等の買い物に職員が付添いながら出かける支援をしている。また、敷地内にある農園での作業や収穫も入居者の楽しみな外出となっている。	

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の買い物にお金を持って同行してもらい会計の際には本人より支払いをして頂いている。希望があれば本人持ちのお財布より商品を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけられる状態にあります。手紙も同様です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度は日に数回チェックして適温に配慮している。トイレや調理場は解り易いように表示している。掲示物で季節を演出するために作品作り(折り紙、ぬりえ等)を願って楽しみながら季節を感じていただく。又庭に咲く季節の花を室内に飾り寛げる空間作りをしている。	共用空間は換気が行き届き、不快な臭いもなく、照明類も適度に調節されており、快適さが保たれている。廊下にはいつでもくつろげるように、入居者好みの椅子やソファが置かれ、入居者が作成した季節毎の作品やホームの庭から摘んできた草花が飾られる等、居心地よく過ごせる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレは、それとすぐにわかるカードを下げ、浴室にはのれんを掛けて一目でわかるようにし、温度湿度は、日に数回チェックして、快適に過ごせるような環境を提供している。庭に咲いている季節の花を利用者に飾って頂き、いつでも眺められる場所に置き、季節感が感じられるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談して、本人が使い慣れたものを自室に置き、住み慣れた環境を変えないように配慮し、カーテンも本人の好みの色に合わせて居心地良く生活できるようにしている。	居室は畳敷にベッドが置かれ、入居者が今まで暮らしてきた居室環境と大きな変化が無いよう工夫しており、生活必需品や家具類等も入居者それぞれが使い慣れた物が持ち込まれ、个性的で居心地よい居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目的場所がひと目で解るように絵や文字でカードを作成し目に着く場所に掲げている。		